

# 博物館の体験活動

森 淳 史

## はじめに

埼玉県では平成 23 年度より「おもてなし日本一の埼玉県 観光づくり基本計画」を策定し、第 1 期計画を 24～28 年度に実施、令和元年現在は令和 3 年度までの第 2 期計画「発見！体験！埼玉県」を実践中である。本稿では第 2 期計画の標題にもなっている体験型プログラムについて、考察を進めていく。はじめに埼玉県の観光の実態とニーズ、学校教育の一環としてのニーズを各資料から確認し、次にさきたま史跡の博物館の体験活動の変遷およびいくつかの博物館の実践事例を見ていく。その上で博物館にしかできない体験活動、博物館の使命について考えながら今後あるべき体験活動プログラムについて検討していきたい。

## 1 埼玉県の観光の実態とニーズ

観光の流行がいわゆる「モノ（商品）からコト（体験）へ」、すなわち既存の買い物や観光地巡りといった内容から「地域の文化、個性を大事にし、地域の人々とのふれあいや様々な体験を楽しむといった地域に根差した観光（埼玉県観光づくり基本計画より）」に移行していることを踏まえ、埼玉県では前述の観光づくり基本計画を平成 24 年度より実践している。計画導入前の平成 23 年度、導入後の平成 25 年度、第 1 期計画終了年の平成 27 年度、直近の平成 30 年度の実績値をまとめるとこのようになる。

(図 1) (図 2)

	観光入込客数		都道府県内の順位	宿泊客の割合 (%)	
				宿泊	日帰り
平成 23 年度	8227	万人	2 位	2.2	97.6
平成 25 年度	9513	万人	2 位	2.1	97.9
平成 27 年度	10287	万人	2 位	1.2	98.8
平成 30 年度	10833	万人	2 位		

(表 1 埼玉県の観光入込客数の推移と宿泊客の割合)

	観光消費額 (県内) (円 / 一人回)	観光消費額 (県外) (円 / 一人回)	外国人の訪問率	都道府県内の順位
平成 23 年度	2374	2935	1.9%	19 位
平成 27 年度	3082	4045	1.4%	22 位

(表 2 埼玉県の観光消費額と外国人訪問率)

この数値から埼玉県の観光には以下のような特徴がみられる。

(1) 観光入込客数が東京都に次いで都道府県別で第 2 位である。一方で宿泊数は最下位で

ある（観光入込客数・公表値より）

(2) 観光客一人当たりの観光消費額は増加傾向、県外観光客の観光消費が多い。

（国土交通省・都道府県別観光消費額単価より）

(3) 外国人旅行者の訪問率が近隣の件に比べ低調である

（日本政府観光局・都道府県別外国人の訪問率より）

以上の点から、埼玉県の観光には①宿泊を伴う観光需要が極端に少ない、②「お金を落とす」観光、特に県外からの観光客へのサービスに改善の余地がある。③外国人旅行者に魅力的な観光に乏しい、外国人旅行者を受け入れる環境が整っていない、という課題が考えられ、同時に観光客数そのものは多く観光立国ならぬ観光都市になりえる潜在的な可能性を持っている、という強みがあることが分かる。県ではこれを受けて前述の観光づくり基本計画にて5つの基本施策を行ってきた。詳細は割愛するが博物館としてかかわりが深いものでは、基本施策「新たな資源開発と観光基盤の整備」「情報発信と観光PR」に基づき歴史、文化を生かした観光資源の掘り起こし、郷土を理解し地域の愛着心を育成するおもてなし推進プロジェクトの推進などである。一例としてさきたま古墳群を含む行田の歴史遺産群の日本遺産への認定や各博物館の表示多言語化などがあげられる。

体験型プログラムは博物館へのこうしたニーズに応える内容になりえる。活動内容を工夫し、「また来たい（再来訪）」「じっくり回りたい（周遊）」内容とすることで、リピーターや宿泊を伴う観光客層の増加を見込んでいくことができると思われる。また、「その博物館にしかできない体験」を行うことは県外からの観光客、海外からの観光客への良いアピールになると考える。

## 2 学校教育からのニーズ

来年度に全面改定を迎える新学習指導要領では「地域に開かれた教育課程」をうたい、学校教育に地域の教育力（三つの財・人財・教材・文化財）を活用するように書かれている。

また、確かな学力を児童（生徒）に身に着けるために必要な学習として、「主体的・対話的で深い学びの実現」を掲げており、児童が主体的にかかわる体験活動、実物に実際に触れる「本物に触る体験」が大変有効である。

学習指導要領では総則において博物館などの活用について以下のように書かれている。

### 第3 教育課程の実施と学習評価

(7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童（生徒）の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂などの施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

平成30年度、令和元年度に博学連携事業で連携した各学校の教員からの声は以下のようなものがあつた。

○児童が主体的に学び、学習したことを実生活に生かすアウトプット型の学び、授業改善を図ることができた。

○博物館という場を通して多面的、多角的に地域の人々と積極的に連携し、地域の魅

力を知ることができた。文化財を守り、将来地域をしょって立つ人財の育成につながると感じた。

- 児童からは本物に触れる体験ができてうれしい、実際に地域の方に説明し、聞いてくれてうれしかったなど、大きな達成感を味わっている感想が聞かれた。
- 小学校3年生社会の昔の道具体験、1,2年生生活科の昔遊びについて、学校の現状として人材面、教材面で教えるのが難しい実態がある。博物館で体験できるのはとても有効である。
- 教科の時数の関係で複数回の遠足を組むことは難しく、どうしても遠距離の遠足や社会科見学にいくつかの体験学習を抱き合わせる形になる。社会だけでなく教科横断的な体験活動が行えるとよい。

また、近年では夏休みの宿題として歴史について調べてくる課題を課す学校も増えているようで、特に中学生の来館者が多く見られた。今後学習指導要領の改訂の主旨を踏まえ、「ゴールの見通しをもって課題づくり→情報収集→整理分析→新たな課題づくりに戻るサイクル」という新しい学習スタイルが学校現場では実践されていくと想定される。特に中学校・高等学校ではこの情報収集を授業時間外の自主・自力解決で置き換えていく流れがあり、こうした課外活動を時数として認める動きもある。(学習指導要領には”各教科等や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業期間中に授業日を設定する場合を含めこれらの授業を特定期間に行うことができる”との記載がある)

令和元年度には、県立6館の合同調整会議博学連携部会において、教員側のニーズの把握を図るため、博物館を利用した教員に下記のアンケートを実施した。さきたま史跡の博物館に寄せられた回答をまとめ、一部抜粋したところ以下ようになった。(表3)(表4)

○日程や地理的条件などの制限がない場合、博物館・美術館をどのような形式で利用したいですか(複数回答可)		有効回答数：小学校教諭 53名、中学校教諭 103名
ア	館に行き見学したり体験したりする	50%
イ	博物館・美術館の職員に学校に来てもらう	27%
ウ	博物館・美術館の資料を貸し出してもらう	23%
エ	その他	0%

(表3 博物館を利用した教員へのアンケート結果(1))

○現在の学校で美術館、博物館を利用する場合、どのような形式が利用しやすいですか(複数回答可)		有効回答数：小学校教諭 53名、中学校教諭 103名
ア	館に行き見学したり体験したりする	35%
イ	博物館・美術館の職員に学校に来てもらう	38%
ウ	博物館・美術館の資料を貸し出してもらう	25%
エ	その他	0%

(表4 博物館を利用した教員へのアンケート結果(2))

傾向として、現状の学校現場では職員が学校を訪れて授業を展開する形のいわゆる「出前授業」が好まれ、制限がない場合は児童が館で体験する活動を希望していることが分かる。

総じて、学校教育の側からは「学校ではできない授業」「博物館、地域と学校の連携」を求めるニーズがあり、体験活動プログラムを提供することはこうしたニーズにこたえることにつながっていくと考える。

### 3 さきたま史博の体験活動の変遷

さきたま資料館時代から体験活動、博学連携事業については行われている。これは学校5日制の導入と関連している。学校5日制が初めて導入されたのは1992年であるが、翌1993年より夏休みに体験活動を行っていた「埼玉風土記の丘教室」にくわえて、広報普及事業「実感！古墳探検」を休日になった土曜日に実施している。なお確認できるもっとも古い「まが玉づくり体験」は1995年実施の「さきたま 実感！古墳探検」である。この年は学校5日制が月二回実施になった年であり、同事業を拡大して実施している。

以下の(表5)は平成17年から平成30年までの体験活動の一覧である。(表5-1~3) 史跡の博物館になって以降の体験活動はおおむね3回の変遷を得て今の形になっている。

2005年より2007年までは「ワクワクサタデーミュージアム」として10種類を超える多様な体験活動を各土曜日に実施していた。この時期はまゆ玉づくりなど民俗展示が残っていたころの資料を用いた取り組みも散見される。

2008年に「さきたま古代体験」と事業を改め、活動内容を大幅に精選して実施している。主な内容は火おこしや土器づくり、古代米の育成、まが玉づくりなどで、活動の一部は現在の子供製作体験、古代米くらぶへと引き継がれている。

2013年にはさきたま古代体験の活動を常設のもの(まが玉づくり)と季節ごとに行うもの(子供製作体験など)にわけ、2019年現在とほぼ変わらない事業の形になっている。通年で行う活動を設けたことにより体験活動をする延べ人数が大幅に増加し、2015年に延べ1万人を突破して以降ほぼ同水準で推移している。

博物館の重要な使命として、こうした伝統文化を残すことがある。また文化そのものは継承できなくとも、疑似的に体験できる場を残すことで体験者に伝統文化について関心を持っていただくことができる。さきたまで行っていた体験活動の多くはキットがまだ残されているので、これらを簡易に復元できるようにアーカイブ化しておくことが急務である。

表5 さきたま史跡の博物館 体験活動の遍歴 ※さきたま史跡の博物館 館報1~14より

(表5-1 平成17年度~平成21年度)

平成17年度	人数	平成18年度	人数	平成19年度	人数	平成20年度	人数	平成21年度	人数
活動人数総計(のべ)	1488		1185		1057		742		707
○ワクワクサタデーミュージアム									
※週休三日制に伴う休日の土曜日に体験活動を実施。						※さきたま古代体験に活動を統合			
まが玉づくり	166	まが玉づくり	246	まが玉づくり	258	火おこしに挑戦	148	火おこしに挑戦	117
ペーパークラフト鉄剣づくり	70	ペーパークラフト鉄剣づくり	38	ペーパークラフト鉄剣づくり	38	古代の布づくり	76	古代の布づくり	64
ペーパークラフト稲荷山古墳	44	ペーパークラフト稲荷山古墳	40	ペーパークラフト稲荷山古墳	40	古代の武人に変身しよう	51	古代人に変身	38
昔と今の稲を植えよう	33	昔と今の稲を植えよう	19	昔と今の稲を植えよう	19	土器づくり	22		
昔と今の稲を刈ろう	30	昔と今の稲を刈ろう	24	昔と今の稲を刈ろう	24				
昔と今の米を炊こう	35	脱穀体験	42	脱穀体験	42	土鈴・土笛づくり	47	土鈴・土笛づくり	39
		昔と今の米を炊こう	20	昔と今の米を炊こう	20			土鈴・土笛を焼こう	28
米づくり体験合計(のべ人数)	98		105		105	古代米を炊いてみよう	37	古代米を食べよう	35
昔のおもちゃを作って遊ぼう	28	昔のおもちゃを作って遊ぼう	19	昔のおもちゃを作って遊ぼう	19				
風土記の丘クイズ	15	滑石の鏡、剣、玉づくり	87	滑石の鏡、剣、玉づくり	61				
昔遊び	60							さきたま古代体験上級者編(一般向け)	
僕らは古代探偵団バスツアー	34	僕らは古代探偵団	39	僕らは古代探偵団	39	鉄剣ガイドツアー	165	勾玉づくり	6
まゆ玉づくり	30	はにわづくり	72	はにわづくり	38			古代の布づくり	10
								土器づくり	3
								土器焼き	3
○ゴールデンウィーク企画「展示説明会」		○ゴールデンウィーク企画「展示説明会」		○ゴールデンウィーク企画「展示説明会」		夏休み風土記の丘教室		さきたま風土記の丘教室	
4月29日、5月1・3・4・5日	335	4月29日、5月1・3・4・5日	148	4月29日、5月1・3・4・5日 合計148名	148	縄文土器を作ろう	39	土器をつくろう	40
		○古墳群ガイドツアー				弥生土器を作ろう	19	古代の装身具を作ろう	19
		4月8日、5月7日、11月3日		○古墳群ガイドツアー		まが玉づくり	47	稲荷山古墳について調べよう	6
				4月8日、5月7日、11月3日		古代のアクセサリ作り(貝輪など)	50		
○さきたま夏休み風土記の丘教室		○さきたま夏休み風土記の丘教室							
※小中学生の保護者対象。講習と実習を実施		※小中学生の保護者対象。講習と実習を実施		○さきたま夏休み風土記の丘教室				さきたまガイドツアー	299
7月23・30日 埴輪づくり	108	7月22日 縄文土器を作ろう	37	※小中学生の保護者対象。講習と実習を実施		こどものための学芸員講座			
8月26・27日 まが玉づくり	119	7月29日 弥生土器を作ろう	39	7月22日 縄文土器を作ろう 37名	37	古墳を測ろう	8		
		8月25日 まが玉づくり	65	7月29日 弥生土器を作ろう 39名	39	子ども古墳教室			
		8月26日 滑石の鏡・剣・玉づくり	31	8月25日 まが玉づくり	65	展示解説・ペーパークラフト稲荷山古墳	33		
				8月26日 滑石の鏡・剣・玉づくり	31				
○さきたま講座 *現行の講義でなく下記の講習・研修会を実施		○子供のための学芸員講座		○子供のための学芸員講座					
写真技術講習会	38	*小学校5~高校生を対象に実施		*小学校5~高校生を対象に実施					
博学連携資料館利用研修会	30	8月3日 古墳を測量してみよう	20	8月3日 古墳を測量してみよう 20名	20				
古代史上のさきたま古墳群(理蔵文化財センターと共催)	104	8月10日 埴輪の拓本を採ってみよう	14	8月10日 埴輪の拓本を採ってみよう 14名	14				
○県民の日記念行事 館内見学会、將軍山・稲荷山古墳見学会	111	○さきたま講座 H18より現行の講義形式に移行							
		全14回実施							
		○県民の日記念行事 館内見学会、古墳群見学会	80						

(表5-2 平成22年度～平成26年度)

平成22年度	人数	平成23年度	人数	平成24年度	人数	平成25年度	人数	平成26年度	人数
	608		458		417		6254		8560
						さきたま古代体験を現行(H31)の形態に整理			
火おこしに挑戦	110	火おこしに挑戦	17	火おこしに挑戦	61	まが玉づくり(通年)	5127	まが玉づくり(通年)	7227
古代の布をつくろう	24	古代の布をつくろう	28	古代の布をつくろう	39				
古代人に変身	32	古代人に変身	44	古代人に変身	11	古代人に変身	51	古代人に変身	84
古代の装身具を作ろう	104	古代の装身具を作ろう	58	古代の装身具を作ろう	47	火おこしに挑戦	362	火おこしに挑戦	276
稲荷山古墳を調べよう	10					ガラス玉づくり	60	ガラス玉づくり	124
土鈴・土笛をつくろう	25	土鈴・土笛をつくろう	38	土鈴・土笛をつくろう	11				
土鈴・土笛を焼こう	21	土器をつくろう	26	土器をつくろう	19				
古代米を食べよう	59	古代米を食べよう	19	古代米を食べよう	10	古代米くらぶ	72	古代米くらぶ	115
さきたま古代体験上級者編(一般向け)		さきたま古代体験上級者編(一般向け)		さきたま古代体験上級者編(一般向け)		さきたま古代体験(夏休みこども体験)		さきたま古代体験(夏休みこども体験)	
勾玉づくり	15	まが玉づくり	7	まが玉づくり	2	土偶を作ろう	24	土偶を作ろう	23
古代の布づくり	11	古代の布づくり	5	古代の布づくり	12	土器をつくろう	24	縄文土器をつくろう	28
土器づくり	4	土器づくり	5	土器づくり	6	古代の布を作ろう	22	弥生土器をつくろう	24
土器焼き	4					土鈴・土笛を作ろう	28	土鈴・土笛を作ろう	31
						貝輪を作ろう	20	古代の布を作ろう	20
								貝輪を作ろう	20
								自由研究相談窓口	
								「調べてわかるさきたま古墳群」	33
さきたまガイドツアー	189	さきたまガイドツアー	211	さきたまガイドツアー	199	さきたま古墳群ガイドツアー	273	古墳群ガイドツアー	211
						企画展ガイドツアー	178	企画展ガイドツアー	147
									18
						古墳の日記念事業 ガイドツアー「万葉歌碑をめぐる」	13	古典の日記念事業 ガイドツアー「万葉歌碑をめぐる」	
				出前授業		出前授業		出前授業	
				古代体験	4校	なるほど古墳時代	11校	なるほど古墳時代	14
						まが玉づくり	3校	まが玉づくり	5
								総合教育センター一般公開外部機関展示	160

(表5-3 平成27年度～平成30年度)

平成27年度	人数	平成28年度	人数	平成29年度	人数	平成30年度	人数
	12826		11722		12008		10845
まが玉づくり(通年)	10947	まが玉づくり(通年)	10130	まが玉づくり(通年)	9650	まが玉づくり(通年)	8088
古代人に変身	109	古代人に変身	123	古代人に変身	149	古代人に変身	115
火おこしに挑戦	498	火おこしに挑戦	532	火おこしに挑戦	458	火おこしに挑戦	206
ガラス玉づくり	84	ガラス玉づくり	72	ガラス玉づくり	47	ガラス玉づくり	84
古代米くらぶ	139	古代米くらぶ	105	古代米くらぶ	173	古代米くらぶ	103
さきたま古代体験(夏休みこども体験)		さきたま古代体験(夏休みこども体験)		さきたま古代体験(夏休みこども体験)		さきたま古代体験(夏休みこども体験)	
縄文土器をつくろう	31	縄文土器をつくろう	25	縄文土器をつくろう	24	縄文土器をつくろう	24
土偶を作ろう	28	土偶を作ろう	32	土偶を作ろう	22	土偶を作ろう	28
土鈴・土笛を作ろう	50	土鈴・土笛を作ろう	61	土鈴・土笛を作ろう	51	土鈴・土笛を作ろう	53
貝輪を作ろう	26	貝輪を作ろう	14	円筒埴輪を作ろう	21	円筒埴輪を作ろう	21
古代の布を作ろう	28	古代の布を作ろう	19			動物埴輪を作ろう	26
自由研究相談窓口		自由研究相談窓口		自由研究相談窓口		自由研究相談窓口	
「調べてわかるさきたま古墳群」	36	「調べてわかるさきたま古墳群」	40	「調べてわかるさきたま古墳群」	650	「調べてわかるさきたま古墳群」	611
古墳群ガイドツアー	217	古墳群ガイドツアー	95	古墳群ガイドツアー	152	古墳群ガイドツアー	151
企画展ガイドツアー	98	企画展ガイドツアー	89	企画展ガイドツアー	87	企画展ガイドツアー	105
最新出土品展ガイドツアー	70	最新出土品展ガイドツアー	104	最新出土品展ガイドツアー	88	最新出土品展ガイドツアー	135
テーマ展展示解説	69	テーマ展展示解説	52	テーマ展展示ガイドツアー	62	テーマ展展示ガイドツアー	47
古典の日記念事業 ガイドツアー「万葉歌碑をめぐる」	23	古典の日記念事業 ガイドツアー「万葉歌碑をめぐる」	16	古典の日記念事業 ガイドツアー「万葉歌碑をめぐる」	5	古典の日記念事業 ガイドツアー「万葉歌碑をめぐる」	9
				古墳群キッズガイドツアー	58	古墳群キッズガイドツアー	79
出前授業		出前授業		出前授業		出前授業	
なるほど古墳時代	14	なるほど古墳時代	18	なるほど古墳時代	28	なるほど古墳時代	21
まが玉づくり	3	まが玉づくり	4	まが玉づくり	7	まが玉づくり	7
総合教育センター一般公開外部機関展示	356	総合教育センター一般公開外部機関展示	191	総合教育センター一般公開外部機関展示	276	総合教育センター一般公開外部機関展示	932

## 5 各館の体験活動

ここで令和元年度・平成30年度の研修及びさきたま史跡の博物館ボランティア研修の一環として訪問した各館の体験活動について紹介する。

### 入間市立博物館 ALLIT：総合教育センター調査研究「学校と社会教育施設の連携に関する調査研究」にて実地調査

#### 【館の概要】

1994年開館。全国でも珍しい「お茶」に特化した博物館。「市内全児童が中学校卒業時に盆手前をマスターする」を目標に開館以来学校との連携事業を重視している。連携事業の中核として茶道体験教室を実施しており、市内の中学校11（全校）、小学校2がこの事業に参加、適応指導学級（ひばり）、校長、教頭会、教員研修で同様の取り組みを実践している。

また、体験活動について対応スタッフとしてALLITレディ（時間給職員。解説、講義形式の教室で指導者を担当）、ボランティア会（ボランティアスタッフと地元茶道サークル。茶道教室を主に担当）が組織されている。博物館職員とこの二つの組織がそれぞれ主催することで多様かつ専門的な体験活動プログラムを実施している。

#### 【主な体験活動】

活動名	主な内容	指導者
茶道教室（学校向け）	館施設にて蹲（手を清める）、にじり（狭い入りぐち）、 広間で茶道体験 映写室にて歴史文化の学習体験 映像資料を活用したお茶の文化学習 上記内容を3コマの授業で実施。	館職員 ALLITレディ ボランティア会
お茶体験	日本各地のお茶の体験や世界各地のお茶体験などを行う	ボランティア会
常設展示解説案内	館内の展示を解説、説明する。	ALLITレディ
サイエンスバー	スライムづくり体験や果物電池製作体験など、子供向けの科学実験を行う	ボランティア会

#### 【活動の成果と課題】

- 継続した事業によりとても高い利用率を維持している。一定年齢以上の市民全員が一度は博物館に来たことがある。地元の職場としてのあこがれ、誇りがある。
- 研修でボランティア、時間給職員の意識を高め、活動に主体的にかかわることができるようにするとともに、職員の負担軽減にも貢献している。
- （施設として）交通面。バスをチャーターしているが児童数減で市の予算は削減傾向。

埼玉県立歴史と民俗の博物館：総合教育センター調査研究「学校と社会教育施設の連携に関する調査研究」にて実地調査

【館の概要】

「埼玉県における人々のくらしと文化」をメインテーマとした歴史系総合博物館。「見る、触れる、学ぶ」をキャッチフレーズに、歴史を人間生活のすべてとしてとらえ、その移り変わりが理解できるよう様々な展示の工夫がなされている。

【主な体験活動】＊一般利用者向け

多目的な製作体験ができる「ゆめ・体験広場（自由自在座・昭和の原っぱモノづくり工房）」にて下記体験活動を行うことができる。

体験名	費用	体験時間	体験内容
昔の遊び	無料	制限なし	けん玉、メンコ、フラフープなどの昔遊びの体験
昔の道具	無料	制限なし	背負いかご、天秤棒、石うす、井戸などの体験
衣装の着装	無料	制限なし	縄文～明治時代の衣装を着装体験
まが玉づくり	250円	60分	やすりで石を削り、ピカピカのまが玉を作成
藍染めハンカチ作り	200円	約30分	自分だけのオリジナルハンカチが作れる染物体験
絵巻物作り	200円	60分	材料組み合わせで絵巻物を作り、絵や文字を入れて仕上げる。

- ・体験については特に指導者を定めず、館ボランティア、地域の方、保護者などが適宜子供たちに遊び方や道具の使い方を教えている。
- ・「昭和の原っぱ」にポンプ式井戸、駄菓子屋の店先、土管、スバル 360 などが設置されている。
- ・火おこし用具一式、昔の生活道具などは体験キットの貸し出し利用が可能。  
(授業に役立つ博物館活用ガイド、に記載)
- ・体験活動と同内容のメニューで学校向けに出前授業を行っている。  
「昔の道具体験」「体験広場通常メニュー(昔遊び)」「古代から教室へ(土器)」「衣装から考える！日本の歴史(着装体験)」等

【活動の成果と課題】

- 製作体験ではスタッフが作品作りを手伝う。体験学習としては作ったものの完成度は必ずしも重要でなく、また利用者からも完成度についての不満はほとんど聞かれない。一方スタッフの側は良い形を知っているため完成度を高めようと手伝う場合も多い。館職員、ボランティアで共通理解を図るための研修が必要である。
- 技術伝承に課題がある。体験活動の指導法、技術について職員、スタッフの異動に関わらず伝達していくシステムを構築しなくてはならない。又、活動によっては年間通しての利用数が少ないものもあるため維持費用がかかっている。  
(藍瓶は職人にメンテナンスを依頼している)

## 朝霞市博物館：総合教育センター調査研究「学校と社会教育施設の連携に関する調査研究」 にて実地調査

朝霞市内の小中学校を中心に、学校教育における授業での博物館利用の促進を目標として実施している。博学連携を推進することにより、朝霞で育ったことを誇りに思う児童生徒の育成を目指している。

小学校1年生では、国語科の「たぬきの糸車」と連動した糸車体験を実施している。小学校3年生では、社会科の「地域学習と連動した昔の道具体験および展示調べ学習」を実施している。そして小学校6年生では、「歴史学習と連動した原始古代体験および展示調べ学習」を実施している。小学校1年生、6年生については、博物館職員が学校へ行く出前授業の形で実施している。小学校3年生については、市教育委員会が取った予算でバスを手配し、博物館で実施している。

こうした活動を継続するため、

- ・市内全小・中学校から1名ずつの教員が博物館利用検討委員会に参加することにより、継続的な取組として定着している。
- ・施設の活用だけでなく、博物館の資料と教科書を結びつける取組も行なわれており、博物館の資料を授業で使う道筋ができている。
- ・博物館を利用しているサークル活動を通じて育成した人材を博学連携に活用するなど、さまざまな角度から学校支援が行われている。

といった取り組みを行っており、さらに平成14年から隔年で「朝霞市博物館活用授業実践事例集」を7部発行し、平成28年からは「朝霞市博物館利用事業資料集」として隔年で発行している。それらには資料の目録や学習指導案のほかに、ワークシートや学校が授業で利用する際の留意点、資料借用の様式等が掲載されており、どのように博物館を利用できるか、わかりやすく説明している。本冊子については、市内の小中学校の全教員に配布されている。

課題として、利用する学校が固定化されてきていること、特に中学校では一部の教員の間でしか利用が広がらないという問題がある。また、前述の事例集、資料集も博物館を利用したことのない教員にとっては使いやすい資料であるとは言えないという声もあった。

## 横浜市歴史博物館：平成30年度ボランティア研修より

大塚・歳勝土遺跡公園に隣接する博物館。(2019年8月より改装のため2020年3月まで休館中)公園内に「ワークショップ れきし工房」があり、当日参加で体験活動をすることができる。(全てのメニューはそのまま持ち帰ることもできる)

2019年現在で あじろ編み、まが玉、まゆ細工、小田原提灯。それぞれ難易度に分けてメニューが用意してあり、まが玉であれば青田石(難しい)、滑石(易しい)の二種類がある。

指導は職員とボランティアで行っている。また長期休暇に合わせて凧作りなどの季節のモノづくりや、5日間かけて本格的に土器づくりに挑戦する講座などを行っている。

課題としてボランティアの人員確保、各講座は開始時間が決まっていないため指導者への負担が大きいこと、などがある。

## 千葉県立加曾利貝塚博物館：令和元年度ボランティア研修より

特別史跡加曾利貝塚に設置されている博物館。加曾利貝塚から発掘された資料を展示しており、貝塚内部を観察することができる野外観覧施設、竪穴住居の再現などがある。

体験的な活動としては団体利用時に申し込むことができる「ボランティアガイドによる解説」が挙げられる。館内展示を1時間、貝塚の見学を1時間（野外観覧施設、竪穴住居などを見学）大変詳しく解説していただける。一般団体はもちろん、縄文時代を学習する小学校6年生も大勢遺跡を訪れている。

展示解説ボランティアについて、館職員主導の研修に加えてボランティアの自主研修、勉強会を行って活動のレベルアップを図っている。

課題としてボランティアスタッフの人数の維持（高齢化）、施設の維持が挙げられる。2019年の台風により竪穴住居の一部に被害が生じ、修復中である。

### 5 体験活動の意義

体験活動についてこれまでに地域の観光としてのニーズ、学校現場からのニーズ、さきたま史跡の博物館の体験活動の変遷、そして他館の体験活動プログラムの事例を見てきた。体験活動は教育普及事業であるが、伝統的な文化、技術の伝承という目的もある。直接技法を児童に伝える活動はもちろん、体験活動プログラムでこうした技術の入り口に触れ、関心をもって調べていく児童を育てることも博物館の重要な使命である。

以上を踏まえ、「さきたま史跡の博物館でしかできない活動」とは何かを考え、提案することで本校の結びとしたい。

### 6 今後の体験活動プログラム案

さきたま史跡の博物館で最も注目を集める展示物はやはり「国宝金錯銘鉄剣」である。しかし、展示してある県が実物であることを知らない来館者は意外と多い。また、令和元年度に復元鉄剣を並べての特別展示を行ったところ、金の文字に関する多くの質問をいただいた。こうした鉄剣への関心を踏まえ、また本物の金錯銘（線象嵌）を疑似体験する活動として、「埼玉古代体験・金錯銘に挑む」を提案したい。

この活動は、エポキシパテ（二種類の素材を混ぜて固まる樹脂）でできたベースに金糸に見立てた糸ハンダを埋め込んでいく活動である。工具にカッターナイフを使用するので年齢は中学生以上を想定しているが、画数の少ない文字ならばマイナスドライバーとニッパーでも代用はできる。文字としては「大王（易しい）、杖刀人（普通）、獲加多支鹵（難しい）で難易度を分け、また、小学校高学年を想定した鉄剣の文字の書き取り体験用ワークシートも併せて掲載する。こちらは鉛筆でなぞる体験に加え、金のマジックペンでなぞらせて出来上がったものをラミネートすればお手軽に金錯名鉄剣のしおりを作ることができる。

以下に手順とワークシートを添付する。さきたま古代体験上級編として実践していけるよう図っていきたい。

こだいたいけん じょうきゅうへん  
さきたま古代体験・上級編

きんさくめい いど  
金錯銘に挑む



国宝金錯銘鉄剣

稲荷山古墳出土

埼玉県立さきたま史跡の博物館



# ○金錯銘体験のやりかた

① 溝にハンダをあわせて切る

押し付けて形を合わせる



② 接着剤を流し込む



③ ①～②を繰り返し文字を埋める



④ やすりで磨いて表面を整える



⑤ 黒い塗料を上から塗る  
乾いたら文字を軽く削って  
ハンダの面を出す



⑥ 上から仕上げの塗料を  
塗って乾いたら完成です。



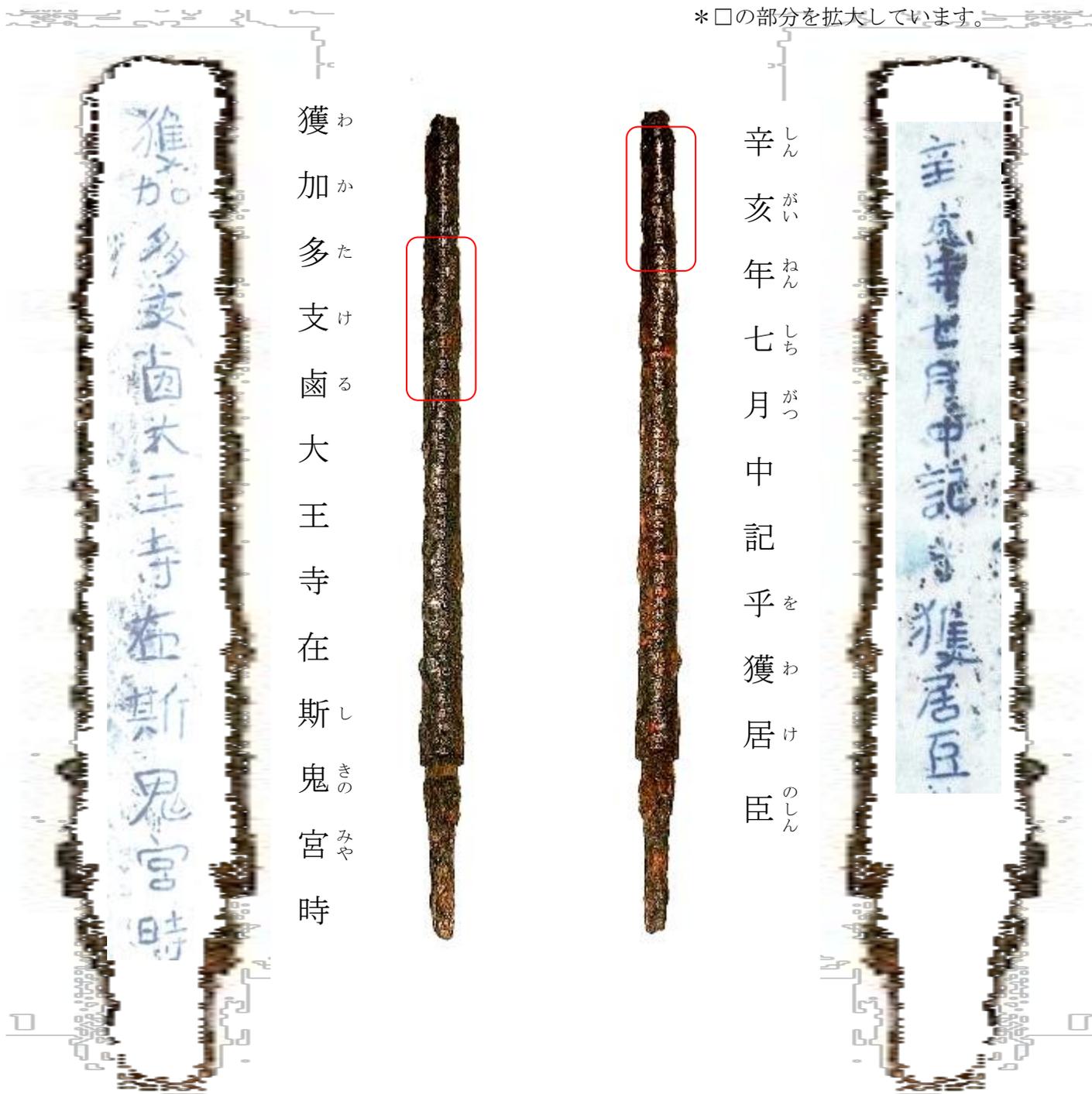
# 金錯銘鉄剣の秘密を探ろう！

国宝展示室にある金錯銘鉄剣。いまから 1500 年以上前の歴史を伝える大変貴重な資料です。

今日はぜひ本物の鉄剣を見て、古代の歴史に触れてみましょう。

①下にあるのは金錯銘鉄剣の銘文の一部です。よく見ながら当時の文字をなぞって書いてみましょう。

\*□の部分拡大しています。



\*博物館には文字を発見した時の写真も展示してあります。調べてみましょう。

②国宝展示室の展示を見ながら、意味を調べたり、すべての文を読んだりしてみましょう。

こちらは金錯銘鉄剣、銘文の全文（全115文字）です。丁寧になぞってみましょう。

作 <sup>46</sup>	王 <sup>33</sup>	枚 <sup>18</sup>	裏 <sup>1</sup>	其 <sup>44</sup>	已 <sup>30</sup>	富 <sup>16</sup>	辛 <sup>1</sup>
此 <sup>47</sup>	寺 <sup>34</sup>	刀 <sup>19</sup>	1	兎 <sup>45</sup>	加 <sup>31</sup>	比 <sup>17</sup>	死 <sup>2</sup>
百 <sup>48</sup>	在 <sup>35</sup>	人 <sup>20</sup>	2	多 <sup>46</sup>	利 <sup>32</sup>	埜 <sup>18</sup>	年 <sup>3</sup>
練 <sup>49</sup>	斯 <sup>36</sup>	首 <sup>21</sup>	3	沙 <sup>47</sup>	獲 <sup>33</sup>	其 <sup>19</sup>	七 <sup>4</sup>
利 <sup>50</sup>	鬼 <sup>37</sup>	奉 <sup>22</sup>	4	鬼 <sup>48</sup>	居 <sup>34</sup>	兎 <sup>20</sup>	月 <sup>5</sup>
刀 <sup>51</sup>	宮 <sup>38</sup>	妻 <sup>23</sup>	5	獲 <sup>49</sup>	其 <sup>35</sup>	多 <sup>21</sup>	中 <sup>6</sup>
記 <sup>52</sup>	時 <sup>39</sup>	妻 <sup>24</sup>	6	居 <sup>50</sup>	兎 <sup>36</sup>	加 <sup>22</sup>	記 <sup>7</sup>
吾 <sup>53</sup>	吾 <sup>40</sup>	至 <sup>25</sup>	7	其 <sup>51</sup>	多 <sup>37</sup>	利 <sup>23</sup>	乎 <sup>8</sup>
奉 <sup>54</sup>	尤 <sup>41</sup>	今 <sup>26</sup>	8	居 <sup>52</sup>	多 <sup>38</sup>	呈 <sup>24</sup>	獲 <sup>9</sup>
兼 <sup>55</sup>	治 <sup>42</sup>	獲 <sup>27</sup>	9	其 <sup>53</sup>	加 <sup>39</sup>	尼 <sup>25</sup>	居 <sup>10</sup>
根 <sup>56</sup>	天 <sup>43</sup>	加 <sup>28</sup>	10	兎 <sup>54</sup>	按 <sup>40</sup>	其 <sup>26</sup>	直 <sup>11</sup>
也 <sup>57</sup>	下 <sup>44</sup>	多 <sup>29</sup>	11	多 <sup>55</sup>	次 <sup>41</sup>	兎 <sup>27</sup>	上 <sup>12</sup>
	令 <sup>45</sup>	支 <sup>30</sup>	12	半 <sup>56</sup>	獲 <sup>42</sup>	多 <sup>28</sup>	祖 <sup>13</sup>
		鹵 <sup>31</sup>	13	云 <sup>57</sup>	居 <sup>43</sup>	互 <sup>29</sup>	名 <sup>14</sup>
		大 <sup>32</sup>	14				意 <sup>15</sup>
			15				
			16				
			17				

《引用・参考文献》

埼玉県・埼玉県産業労働部観光課 2011 「おもてなし日本一の埼玉県 観光づくり基本計画」  
2017 同第2期計画「発見！体験！埼玉県」

文部科学省 2002 学校教育法施行規則

文部科学省 2017 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則

文部科学省 2017 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

文部科学省 2017 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

埼玉県立さきたま資料館 1970～2005 「資料館報」No.1～36

埼玉県立さきたま資料館 1989～2006 「広報誌 さきたま」Vol.1～17

埼玉県立さきたま史跡の博物館 2007～2019 「館報」NO.1～14

埼玉県立史跡の博物館 2007～2019 「埼玉県立史跡の博物館紀要」第1～12号

埼玉県立歴史と民俗の博物館 2009 「研究紀要」第3号

埼玉県・埼玉県教育委員会 2019 埼玉県教育振興基本計画  
「豊かな学びで未来を拓く埼玉教育」

埼玉県・県立総合教育センター主催 2018・2019

学校と社会教育施設の連携に関する調査研究～社会に開かれた教育課程の実現を目指して～

横浜市歴史博物館 2018 見学のしおり

千葉市立加曽利貝塚博物館 2019 特別史跡加曽利貝塚 加曽利貝塚博物館 しおり